



デジタルメディア時代における子どもと 絵本・本の関わりについて

東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター

佐藤 賢輔

本日のご報告について

目的

1. 幼児の読書環境、デジタルメディア環境の現状を明らかにする
2. 絵本における紙とデジタル違いについて、実験結果をもとに考察する
⇒ 発達段階や多様な特性に応じた読書習慣の形成、読書とICTのベストミックスについて手がかりを得る

紹介する研究結果

- 保護者、保育施設、公立図書館を対象とした読書環境等に関する実態調査の結果
- 紙とデジタルの比較実験の結果

参考資料



時間の都合上、ご紹介できない調査結果がたくさんございます。

参考資料

リーフレット①：調査結果ダイジェスト
「令和の子どもと絵本・本環境」



リーフレット②：写真でみる公立図書館・図書室
の乳幼児・保護者のためのスペース事例集



その他、本プロジェクトの成果やシンポジウム・セミナーに関する資料は、
「Cedep×ポプラ社共同研究プロジェクトページ」にて随時更新されています。

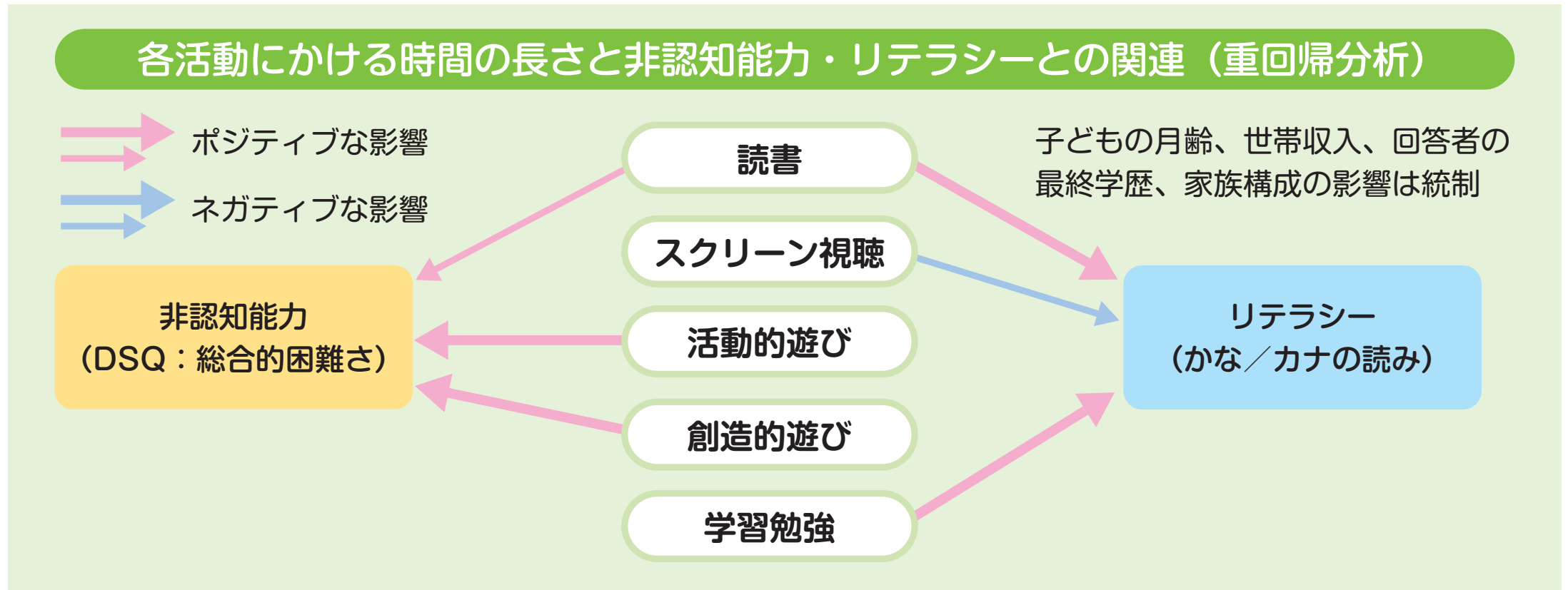
http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/research/poplar/



- 本報告で取り上げた調査のより詳細な結果や、関連する研究等については、上記リーフレットやプロジェクトページをご覧ください

家庭での幼児の過ごし方と発達の間連

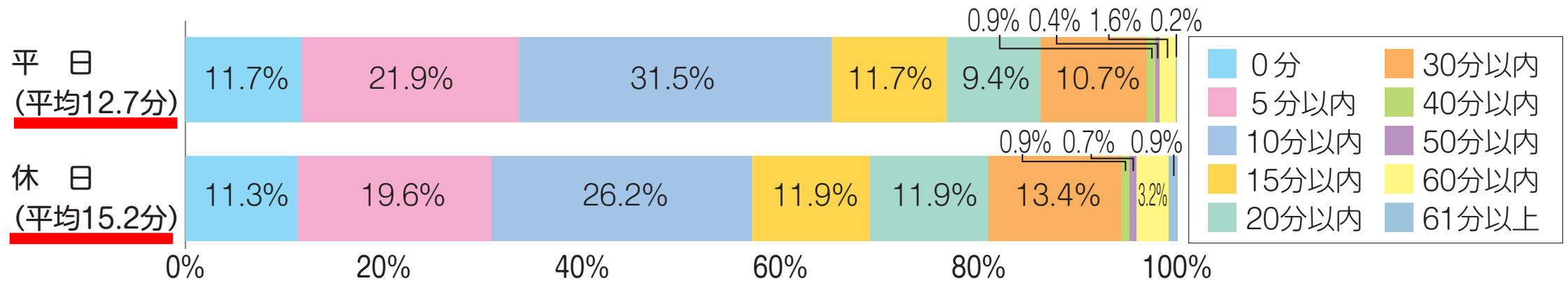
- 読書のみ非認知能力とリテラシー双方に良い影響／スクリーンタイムの負の効果は限定的



※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より
2021年7月実施、年少～年長クラスの幼児の母親1596名が回答

家庭での読書・読み聞かせ習慣

- 家庭での読書時間は短い：1日の読書時間が10分以下の子どもが過半数



お子様は平均して一日何分程度、絵本や本を読んでいますか？ ※保育施設等で読む時間は除く

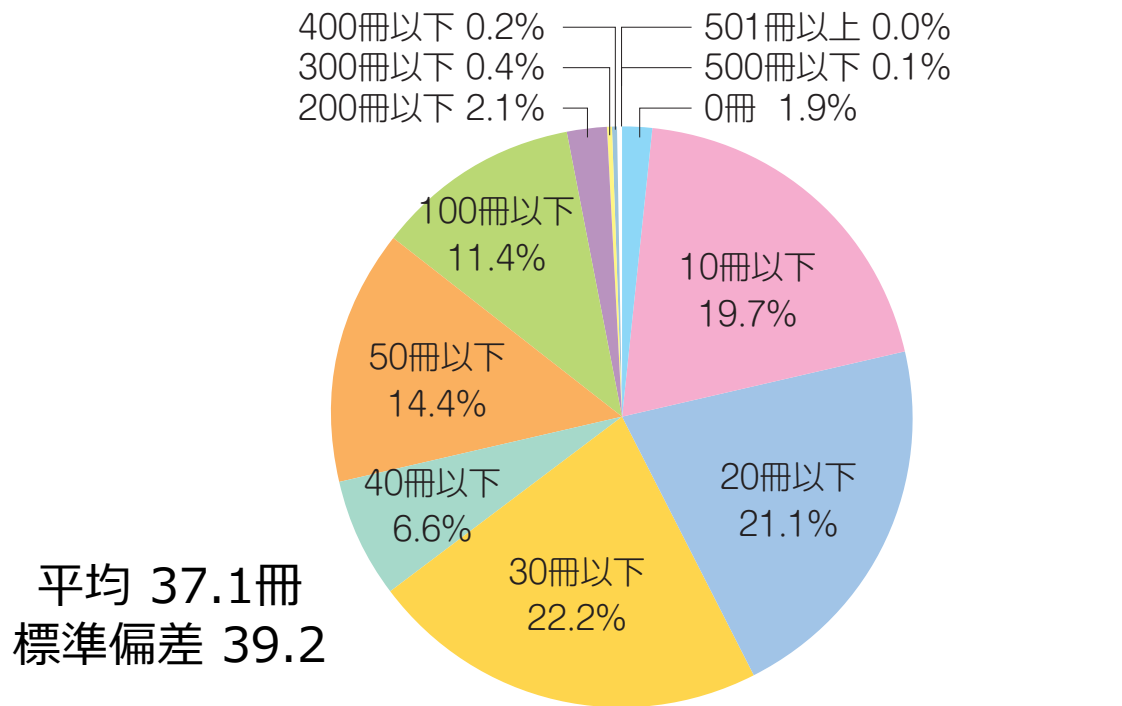
※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

※ 2006～08年における3～5歳児の絵本読み時間は、平均25-28分程度
(NHK “子どもに良い放送” プロジェクト調査)

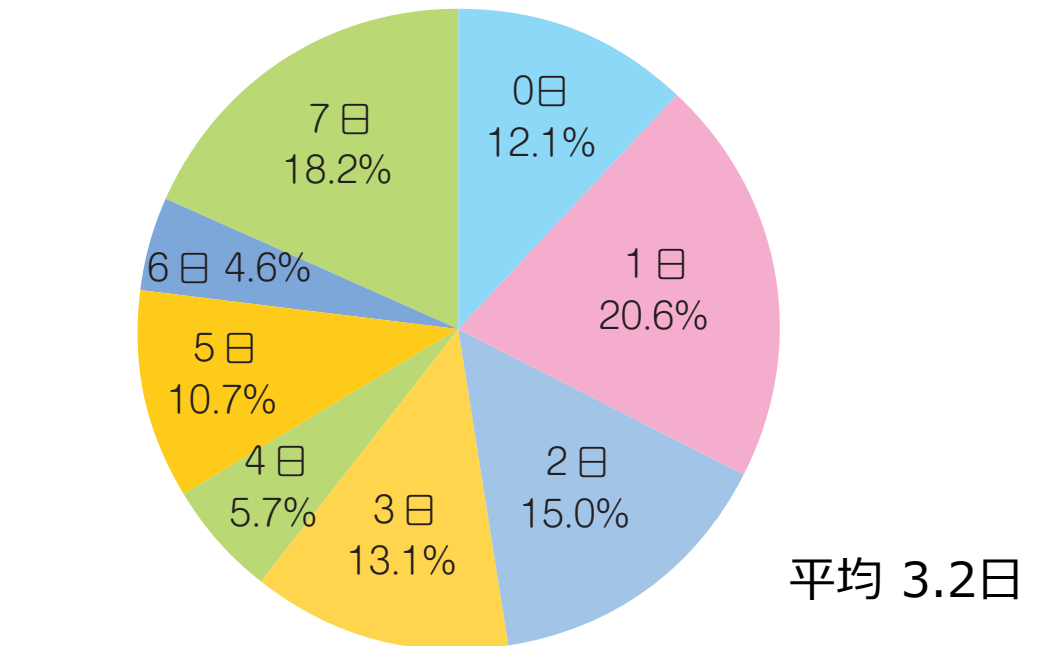
⇒ 読書時間は減少傾向にある可能性

家庭での読書・読み聞かせ環境

- 家庭の絵本の蔵書数や読み聞かせ頻度の格差は大きい



家庭にある子どもの絵本・本の冊数（電子書籍除く）



大人と一緒に絵本・本を読む頻度（週あたり）

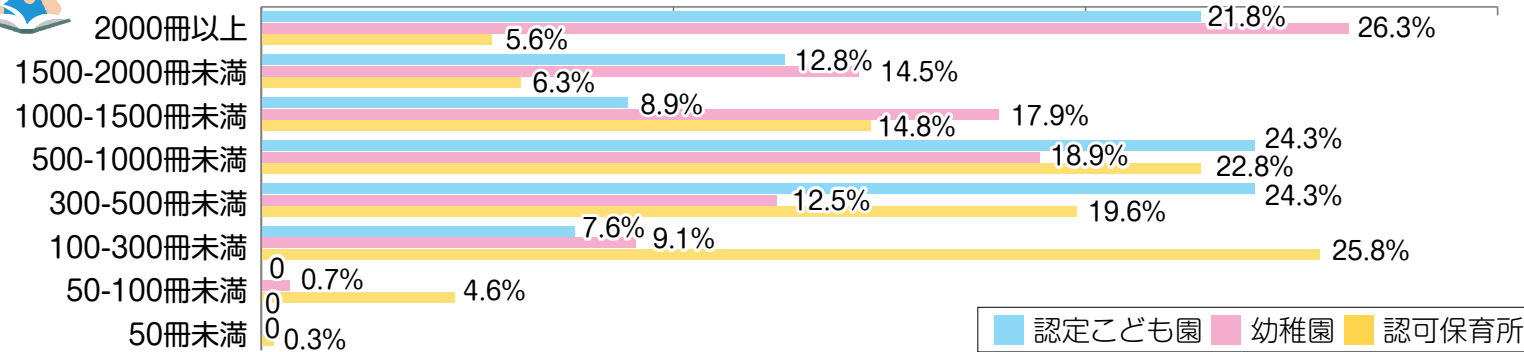
※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

保育・幼児教育施設の読書環境

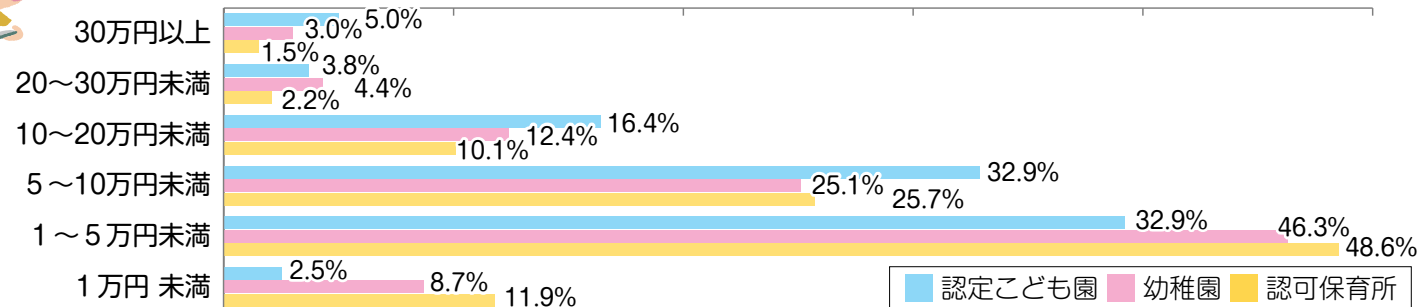
- 保育・幼児教育施設の蔵書数や絵本予算にも大きな格差がある



絵本の蔵書数の割合 施設形態別



年間の絵本予算の割合 施設形態別



- 家庭での読書環境の格差を補完するには不十分

※ 保育・幼児教育施設における絵本環境実態調査より

読書環境と読書習慣の関連、読書の様態

絵本・本の冊数、共同読み頻度、読書時間の相関係数（いずれも1%水準で有意）

	絵本・本冊数	共同読み頻度	平日読書時間	休日読書時間
絵本・本冊数	-			
共同読み頻度	.32	-		
平日読書時間	.25	.35	-	
休日読書時間	.22	.31	.79	-

⇒ 絵本・本の蔵書数が多いほど／保護者が頻繁に読み聞かせするほど読書時間が長い

お子様が絵本や本を読む時間のうち、
1人で読んでいる時間の割合は？（平日）

0～50% (誰かと一緒に読むことの方が多い子)	78.0%
51%～ (1人で読むことの方が多い子)	28.0%

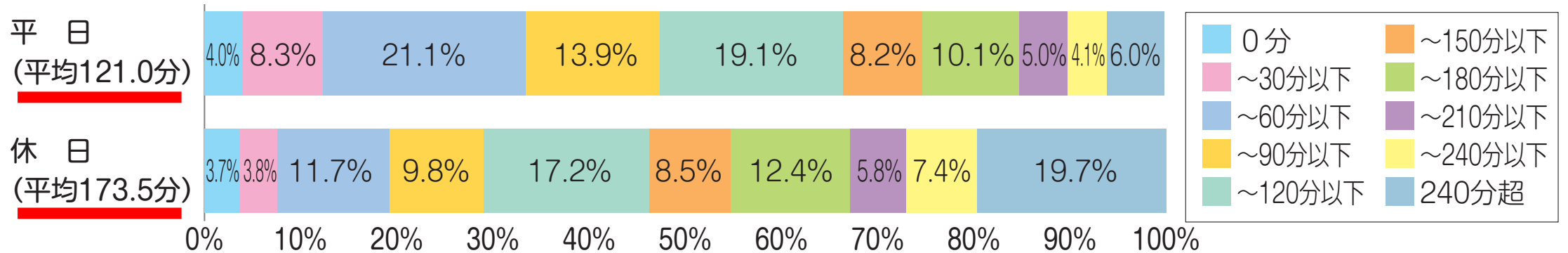
- 幼児の読書習慣は、家庭の絵本・本環境や大人のサポートに影響を受ける
- 一方、幼児が1人で読むケースも稀ではない

※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

スクリーン視聴の実態

- スクリーンタイムは平日でも平均2時間超

※ スクリーンタイムのおよそ4分の3はテレビモニターの視聴



お子様は平均して一日何分程度スクリーンを視聴していますか？（各デバイスの視聴時間を合計）

※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

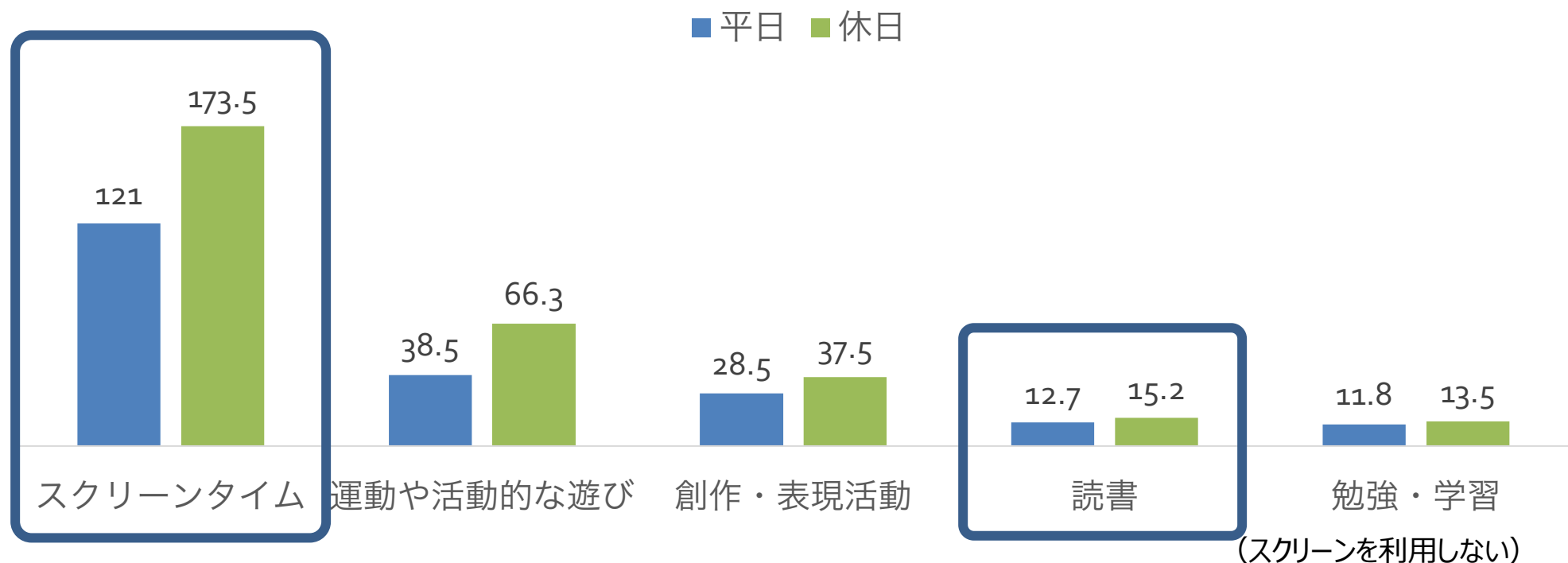
※ 2006～08年における3～5歳児のテレビ視聴時間は、平均129-146分程度 ※平日・休日の別なし
 （NHK “子どもに良い放送” プロジェクト調査）

⇒ スクリーンタイムは概ね横ばい／テレビ視聴時間は減少、視聴デバイスの多様化（コンテンツも多様化）

幼児が各種活動に費やす時間と平日／休日差

※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

- 読書、学習の時間は休日に増えないが、スクリーンタイムや活動的遊びは大きく増える

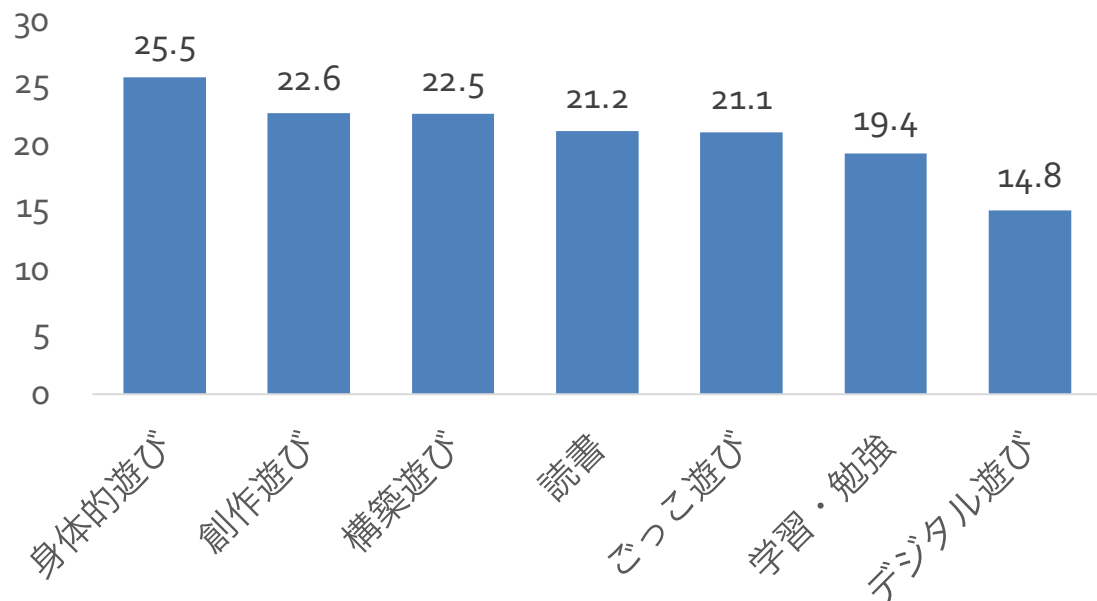


子どもが諸活動に費やしている時間の平均 (分) ※保育施設等での活動時間は除く

保護者の遊び観

※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

子の発達にとって、現時点で、大事だと思う活動は？



- 身体的遊びが最も重要視されていて、創作遊びや読書などがそれに続く
- 幼児が多く時間を割いている「デジタル遊び」は、保護者からは最も重要でない遊びと考えられている

「必要悪としてのデジタル」という意識

デジタルデバイスを使った読書

※ 幼児の読書とデジタルメディア利用に関する保護者調査より

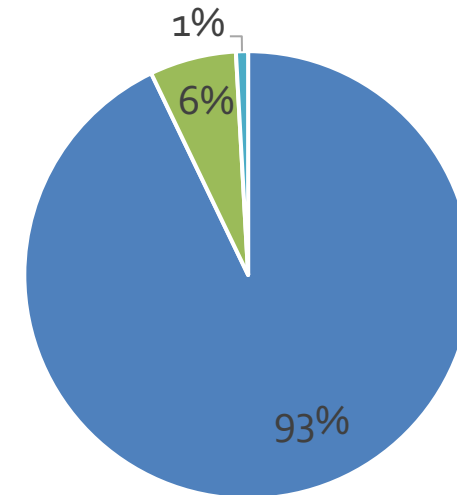
子どもの読書、紙とデジタルどちらが好ましいか



0% 20% 40% 60% 80% 100%

- 紙の絵本や本の方が好ましい
- どちらかと言えば紙の絵本や本の方が好ましい
- 紙でも電子書籍でもどちらでもよい
- どちらかと言えば電子書籍の方が好ましい
- 電子書籍の方が好ましい

家庭での読書時間のうち、デジタル絵本・本を読む時間の割合



■ 0% ■ 50%以下 ■ 50%超

子どもがデジタル絵本・本と接することについても、保護者の意識はネガティブ

幼児の読書とデジタルメディア利用：調査結果まとめ

- 絵本・本とのふれあいは幼児の発達にとって重要
- 読書・読み聞かせの時間は多くの家庭で短い傾向
 - 子ども・保護者にとって、スクリーン視聴など他の活動の方が魅力的？
 - 読書・読み聞かせに対する物理的・心理的障壁が比較的大きい？
- スクリーンタイムの多さは、必ずしも子の発達にネガティブな影響を与えているとは言えない
- スクリーンタイムの多くはテレビ番組や動画の視聴、ゲームに占められ、デジタルデバイスを利用した読書や学習は、現時点では一般的ではない

紙の絵本とデジタル絵本の比較実験：方法

2パターン（実験室／オンライン）の実験を実施

実験室実験

- 東大Cedep実験室で実施
- アイトラッカーによる読み聞かせ時の親子の視線の同時計測

4～6歳児と保護者9組



オンライン実験

- Zoomミーティング上で実施
- 参加者はいつも絵本を読んでいる環境（自宅）から参加

4～6歳児と保護者69組



実験のポイント

- 内容理解だけでなく、親子の会話や視線行動についても比較
- 自宅環境でのより自然なパフォーマンスを検討（オンライン実験）

紙の絵本とデジタル絵本の比較実験：内容理解

- **実験室実験・オンライン実験**とも、2つの絵本いずれについても、紙とデジタルで絵本の内容理解に差はない

Table. **オンライン実験**における絵本の内容理解質問の正答率

	事実質問	感情質問	全質問
紙けんか	90.6%	62.5%	70.5%
デジタルけんか	87.5%	60.0%	67.9%
紙さき	84.4%	77.5%	79.5%
デジタルさき	87.5%	66.3%	72.3%

事実質問：物語中の出来事について正確に記憶しているかどうか

感情質問：登場人物の心情の変化を理解できているかどうか

紙の絵本とデジタル絵本の比較実験：子と保護者の発話分析

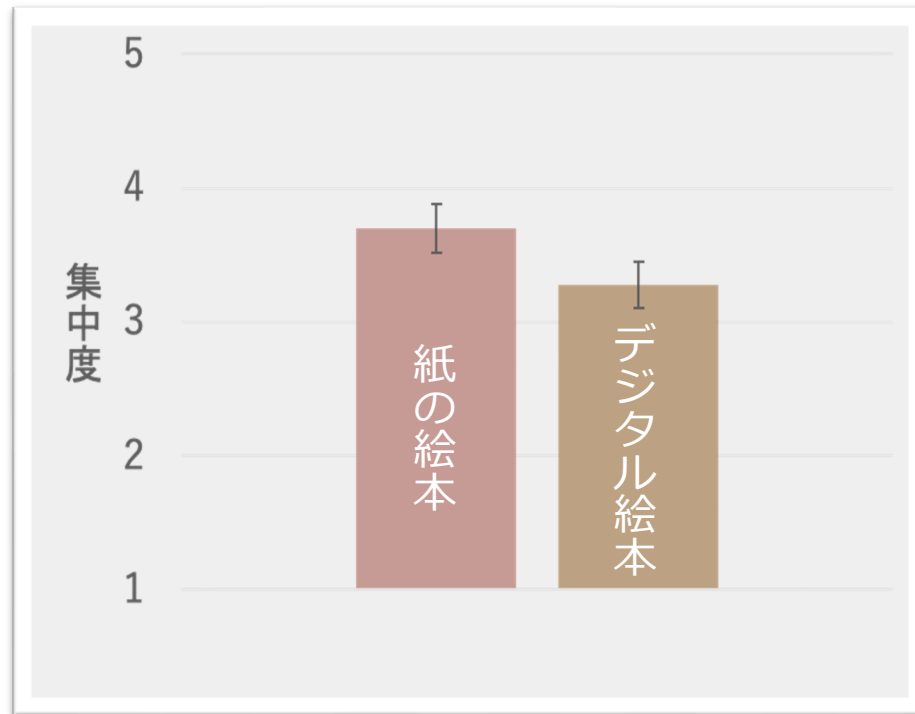
未発表データにつき非公開

紙の絵本とデジタル絵本の比較実験：子と保護者の発話分析

未発表データにつき非公開

紙の絵本とデジタル絵本の比較実験：集中・没入

- 子どもにとって、紙の絵本の方が集中・没入しやすいかもしれない



「お子さんはどのくらい集中して取り組んでいましたか？」

5段階評価の平均値 (オンライン実験)

オンライン実験

- 絵本のうち1つで、子どもは、紙の絵本の方をより楽しかったと評価

実験室実験

- 紙の絵本の方が、子どもの視線が絵本から外れることが少ない

紙の絵本とデジタル絵本：実験結果まとめ

- デジタル絵本は内容理解において紙の絵本に劣らない
 - ※ Furenes, Kucirkova, & Bus (2021) によるメタ分析の結果から紙とデジタルの違いのみで生じる優劣はなく、デジタル絵本に実装する機能のバリエーションにより、子どもの受け取り方に変化が生じる（例：ストーリーを強調するアニメーションを付加すれば内容理解が促進され、文字強調や辞書機能を付加すれば言語獲得が促進される）
- 紙の絵本に特有のメリットがある
 - 読みの休止・再開、言い換えなど自由度が高いことが、会話を通じた読みの繊細な相互調整、そして集中・没入につながっていると考えられる

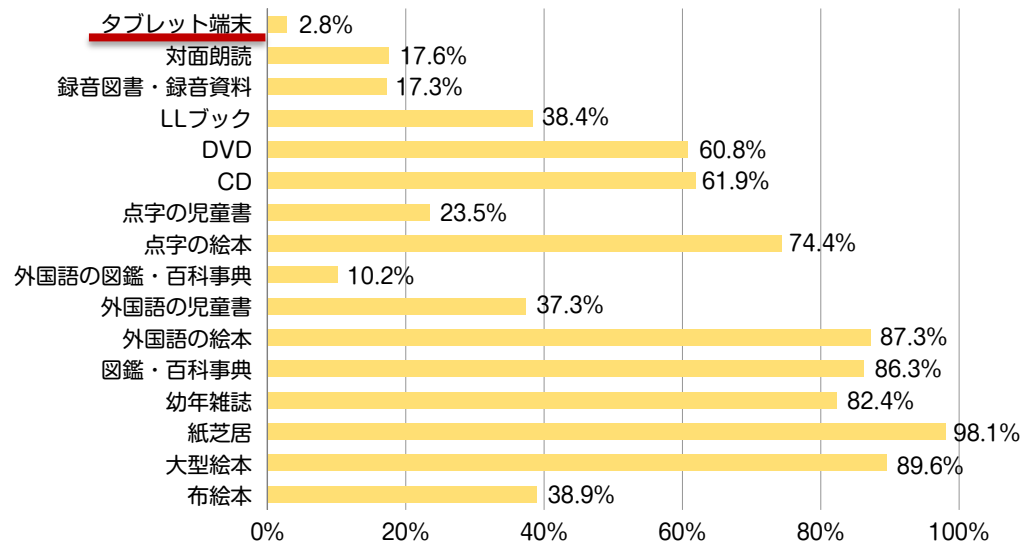
紙の絵本とデジタル絵本：デジタルのメリット

- デジタル絵本や子ども向け電子書籍の可能性

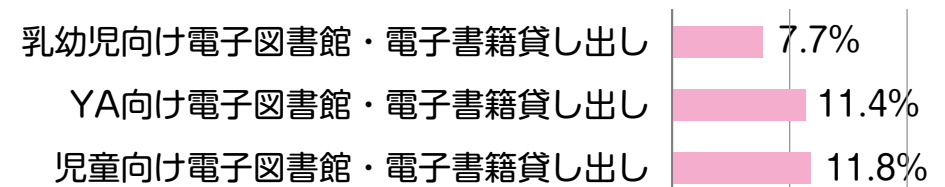
- スクリーンタイムの一部を「読書時間」化する？

- 障害者への対応や多言語対応など豊富なアクセシビリティ機能の付加

乳幼児とその保護者のための蔵書・物品、サービス



子どもと保護者のための設備やサービスの導入割合



- 家庭だけではなく、図書館・園でも電子書籍の活用や、デジタルデバイスを利用したバリアフリー対応は進んでいない

※ 子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査より

調査および実験結果に基づく提言

- 紙／デジタルのそれぞれの特徴を活かし、読書をもっと楽しく、楽に、のびのびとできるような施策が必要
 - すべての子どもと保護者が絵本・本へアクセスしやすい環境の構築
 - 家庭だけでなく、園・学校、図書館等を含む多層的な視点から
 - ICT活用による読書の多様化：個別最適な読書環境の構築
 - 子どもにとって魅力的な電子書籍コンテンツとプラットフォームの整備
 - 子ども本位の（そして保護者フレンドリーな）読書推進

今後必要となる研究：本プロジェクトの展開

- 読み聞かせから1人読みへの移行期間を含めた子どもの読書・メディア経験に関する研究
 - 未就学児～小学生低学年を含めた家庭における読書・メディア経験に関する縦断調査を開始（第1回を7月に実施、8月速報予定）
- より魅力的な子ども向け電子書籍プラットフォームの整備につながる研究
 - 今後、小・中・高等学校向けデジタルプラットフォーム「MottoSokka!」（ポプラ社）を利用した実践について、効果や課題などを検討する予定

※「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」における先駆的な授業実践事例なども参考に

（参考）MottoSokka!サービスサイト

